

# 東南アジアフォーラム開催 持続的生存圏の構築目指し

## 京都大学と科学院が協力 テレビ会議で大いに討論

京都大学と同大元留学生の同窓会「ハク」、インドネシア科学院（IIP）は二十八、二十九の両日、中央ジャカルタのIIPで「第一回京都大東南アジアフォーラム」を開いた。同大は今年から温暖化、違法伐採など、人々の生活に影響を及ぼす問題に地球規模で取り組むことを目指し、文部科学省の研究テーマ「グローバルCOEプログラム」のプロジェクト「持続的生存圏構築を旨とする研究拠点の形成」を立ち上げた。今回のフォーラムはプロジェクトの第一弾。インドネシアを中心に東南アジアの各大学、研究機関らと提携し、従来の研究領域の枠組みを超えてさまざまな分野の研究者を取り込み、各地に散らばる京大卒業生のネットワークも活用する国際的な繋がりを重視したプロジェクトだ。京大主催のインターネット・テレビ会議を応用した初めての国際セミナーとなった。

（安田信介 写真も）

セミナーには、京都大が木谷雅人理事（副学長）、同大東南アジア研究所の水野広祐所長、プロジェクト・リーダーの杉原薫教授、同大生存圏研究所の川井秀一所長ら、インドネシア側から「ハク」のスピーチコーディネーター、サビハム会長、ポゴル農科大、バンバゴン・スピラント副会長（LIPI）、LIPIの研究員、京都大の元留学生ら約百四十人が参加した。

セミナーには、京都大が木谷雅人理事（副学長）、同大東南アジア研究所の水野広祐所長、プロジェクト・リーダーの杉原薫教授、同大生存圏研究所の川井秀一所長ら、インドネシア側から「ハク」のスピーチコーディネーター、サビハム会長、ポゴル農科大、バンバゴン・スピラント副会長（LIPI）、LIPIの研究員、京都大の元留学生ら約百四十人が参加した。

セミナーでは、木谷理事が「持続的生存圏の構築」をテーマに、京大とインドネシアの協力を結ぶべきことや森林伐採などの新しい問題への対応が目的。地球全体を視野に入れ、分野の仕切りを取り払い、人文科学、社会科学、物理化学などさまざまな分野の研究者たちが取り組むことで、持続可能な生存圏の構築を目指すことが決まった。

同知事選にはすでにアグム・グムラール運輸相（閣内）を表明している。ダニール知事は二十九日、アグム氏を含め、全ての候補と競い合う準備ができていると述べた。

Menara Thamrin 305  
Jl. M.H. Thamrin Kav. 3  
Jakarta 10340  
Phone : 62-21-230-3830

Rp.12,000

編集協力 びすく社  
© PT. BINA KOMUNIKA ASIATAMA, BYSCH  
License No.508/SK/MENPEN/SUPP/1998



パネル・ディスカッションを行う日本、インドネシアの研究者

能な新しい生存圏の構築を目指すという。

京大は今年七月十九日にプロジェクトの拠点強化とネットワーク構築を目的に、京大で学んだ後、インドネシア各地で活躍する元留学生の会「ハク」を結成。二十六日には、第一回総会が開かれた。来年一月にはタイ・バンコクで同窓会組織を立ち上げる予定だ。

水野氏は今回のセミナーの目的を①京大のインドネシアでの社会的発信力を高め、公論形成に参加②プロジェクトについてインドネシア側との認識の共有③と説明。「インドネシア経済の発展と共存できるような生存圏の構築を目指す」という。

木谷理事は「インドネシアの生物多様性など具体的な問題に即した話が出て、活発な意見交換ができた。京大の持ち味である、フィールドに基づいて研究する」の強化を目指したい」と述べた。

京都大は、世界の研究拠点ともスムーズに連携、大リーで持参。現地でも手応えを感じたという。将来は週一回、数十回を全手十分に準備したマへと回数を増やしていきたいとしている。

京大の情報ネットワークを担う東南アジア研究所・地域情報ネットワークセンターの接続が不安定な地域も多い。そのため、会議などの時間には確実に使えるように前もって会場に通達しておく。

### 海を越え「テレビ・セミナー」

#### 京大が積極的に推進

水野所長によると、今月十六日には、インド工科大（ITB）、ベトナムのベトナム国立大、ナム国立大、京大の三方所を結んで遠隔授業を実施。

水野所長が「持続的生存圏」について一時間講義した。後、三分の二の質疑応答を行った。

ITBの学生約六十人、ベトナム国立大の学生約二十人が参加して、京都の水野所長の講義を聴いたが、地約約百万円の米国製テレビもクリアで、質疑応答

万全の状態にしておくことが不可欠。日本では各大学で導入している慶応大などは、少しずつ利用大学が増えている。遠隔授業。全世界が結ばれる日も遠くない。